

実施学年	5年	実施教科 (科目)	社会科	実施日	H24.10.10
単元名	私たちの生活と食料生産～水産業のさかんな地域～				
本時の内容 (項目)	日本の水産業～三重県桑名市赤須賀漁業協同組合の取り組みを事例として～ (2)(ウ) <u>食料生産に従事している人々の工夫や努力</u> 、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き				
本時の目標	三重県桑名市の赤須賀漁協の漁師さんたちが岐阜県加茂郡白川町で植樹活動をする理由について追究する活動を通して、良質な漁場を確保するためには、豊かな山と川を守る必要性があることに気づき、漁師さんの活動がハマグリの水揚げ増加により影響を与えたことが分かる。また、可児市を流れる木曾川水系の環境を守ることの大切さに気づき、自分たちの生活と関連付けて考えることができる。				
授業場所	5年2組教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他( )		ICTの主な 活用者	教師・生徒	
活用するICT 機器	電子黒板				
ICTを活用する 目的・ねらい・ 予想される 効果	<p>【目的・ねらい】 電子黒板に映し出した写真や資料を拡大したり、注目させたいポイントを示したりすることで、導入での課題化や追究での活用に役立つ。</p> <p>【効果】 ・資料について、注目する部分の分かりやすく、資料の読み取りが苦手な児童でも課題追究がしやすくなる。</p>				
児童生徒の情 報活用能力を 育てる指導場 面・指導内容	<p>・グラフ資料の読み取りを行う際、グラフの種類に合わせて、適切な見方を確認することで、グラフ資料の読み取りの力を伸ばす。</p> <p>・意見交流の中で、児童が電子黒板に書き込みながら説明をすることで、伝え合う力を伸ばす。</p>				
利用するコン テンツ名・サ イト等	Microsoft Powerpoint				
参考にしたサ イト・文献 等	<p>三重県赤須賀漁業協同組合提供資料「植樹活動の変遷」「ハマグリ漁について」 「ハマグリ水揚げ量の経年変化」「桑名のハマグリについて」 白川町役場農林商工課林野グループ提供資料「植樹活動の様子」 三重県外湾漁協組合提供資料「水産物の水揚げ量」 新しく学ぶ小学生の地図帳『帝国書院』「地図の転写」</p>				
事前の準備	<p>・写真資料(伊藤さんの写真・話、植樹活動の様子)→電子黒板用</p> <p>・グラフ資料(ハマグリの水揚げ高の経年変化)→黒板用</p> <p>・図表資料(木曾川流域の地図)→黒板用</p>				

<p>指導計画（授業の展開）</p>	<p>1. 岐阜県白川町で植樹活動をする三重県赤須賀漁港の伊藤さんの写真を見て、気付いたことを発表する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">漁師の伊藤さんが白川町で植樹活動するのはどうしてだろ</p> <p>2. 4年生「水はどこから」や養殖業の学習で得た知識を参考にして、課題について予想を立てる。</p> <p>3. 考えづくりに必要な資料を選択する。</p> <p>4. 植樹活動をする理由について資料を基に自分なりの考えをつくる。</p> <p>5. 意見を交流し、考えを深める。</p> <p>6. 子ども達への問いかけ 「伊藤さんは、15年間白川町の山に木を植えているけれど、白川町にこだわるのはなぜだろう？」</p> <p>6. まとめる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">伊藤さんたちが白川町で植樹活動するのは、ハマグリの成長に必要なミネラルや鉄分を多くふくんだきれいな水を確保するためである。海的环境を守るためには、山的环境を守ることが大切である。</p> <p>7. 伊藤さんからのメッセージを読んで、可児市に住む自分たちの役割について考え、次回につなげる。</p>	<p>（※情報モラルの指導内容）</p> <p>※提示する資料には、全て出典を明記する。（資料の出典を確認することを継続して指導しておく）</p>
<p>ICTを活用した授業時の教師側（指導上）の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や細かいデータを提示する際、電子黒板の大きな画面が役に立つ。その分、資料を精選し、児童に注目させたい部分がわかりやすい資料作りと提示方法を工夫する。</li> <li>・授業中、電子黒板に体を向ける時間を削減するため、アニメーションやスライド変更の時間を事前にセッティングしておく。</li> </ul>	
<p>ICTを活用した授業時の児童生徒の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日はどんな資料が出てくるのかな。」と休み時間のうちから、楽しみにしている児童の姿があった。</li> <li>・導入の写真を見たとき、「なぜ?」「どうして?」という課題につながる反応が児童から出た。</li> </ul>	
<p>ICTを活用した授業後の評価（実践の手応え）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時、実物が用意できない場合に、写真や動画を見せることで、言葉で説明するよりも、児童の興味・関心を高めることができた。</li> <li>・PowerPointを使用した際、資料提示の速度や切り替えのタイミング、見せる部分と見せない部分などを、意図的に設定できるため、活用の幅が広がる。</li> <li>・児童がICT機器を意欲的に扱おうとする姿が増えた。（電子黒板の書き込み等）</li> </ul>	
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のICT機器の操作技能に差があるため、継続した指導が必要である。</li> <li>・見栄えに頼らず、より一層、資料の精選を行っていく。</li> <li>・教材の準備に時間がかかるため、作成したデータのうち保存可能なデータを学校内の共有サーバー等に保管しておく。</li> </ul>	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。